昇亭鼓復

三府膝栗毛

初編

松村撰為我作

松亭写為 吟光画

為鮮雲摔

A 786
1

昇平
戦腰

三府膝栗毛

初編
上之巻

松村櫻雨戯作
吟光画

島鮮堂版

248-8387

此度著を膝栗毛へ明治の御代ゑ逢ひ乗うの腕力車に跡押と道を速めゝ三府の滑稽固より一九が尻馬ゑ股くゝる趣向も電信も。借らぬ作者が急按拙作御意ゑ叶へば幸福と。ゆきまゝゝ。ゝゝ初編の草稿日本橋ゑ品湾と序次を追ぬ高飛ひば蝙蝠今の羽を伸て。濱と伸戸の一足飛び危難ひ仕事も筆の毛乃。三本足らぬ猿智恵あて。結び留たる一ト巻を云へば三番乃お座附をゑれば外へゑ遣らゝと御見物を只管ゑのゝぎ

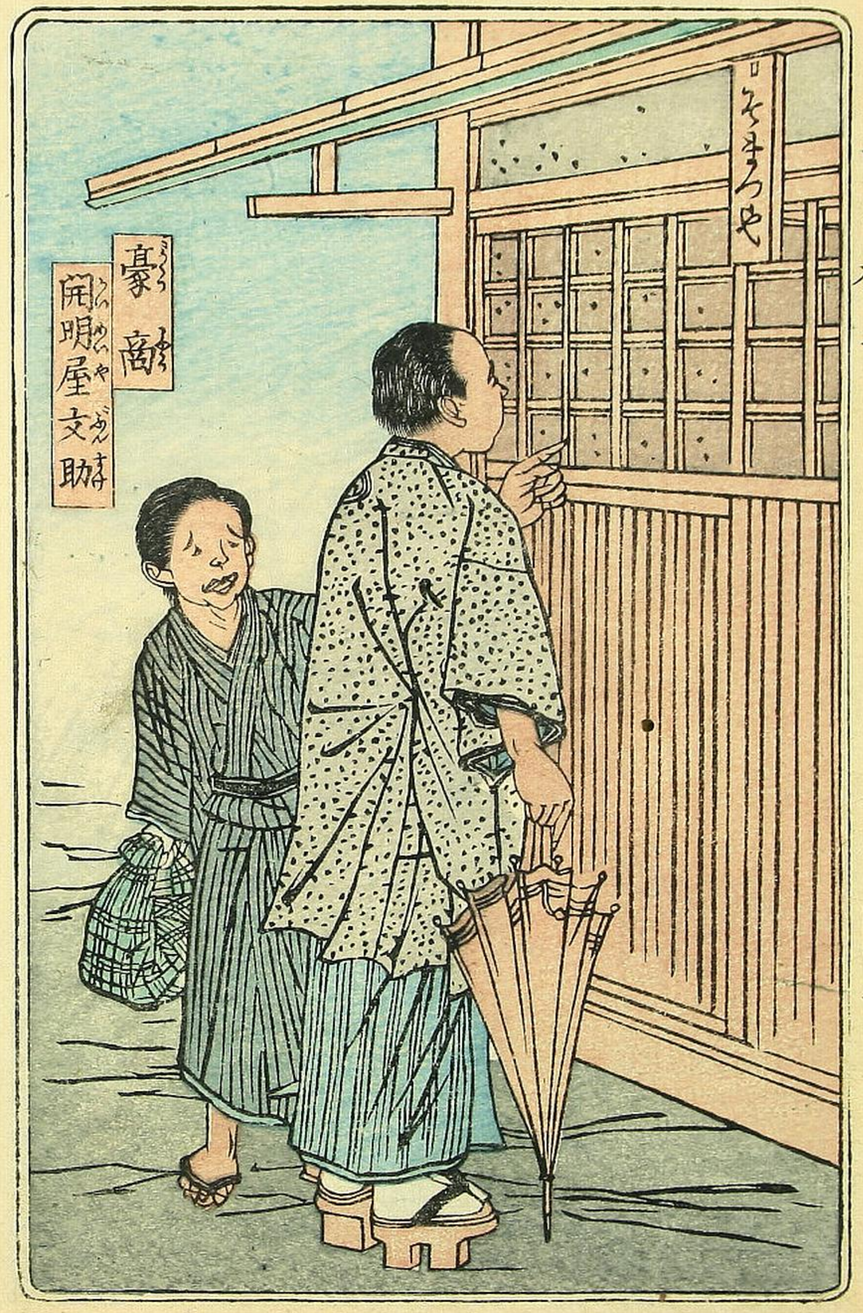
熹をふかん。

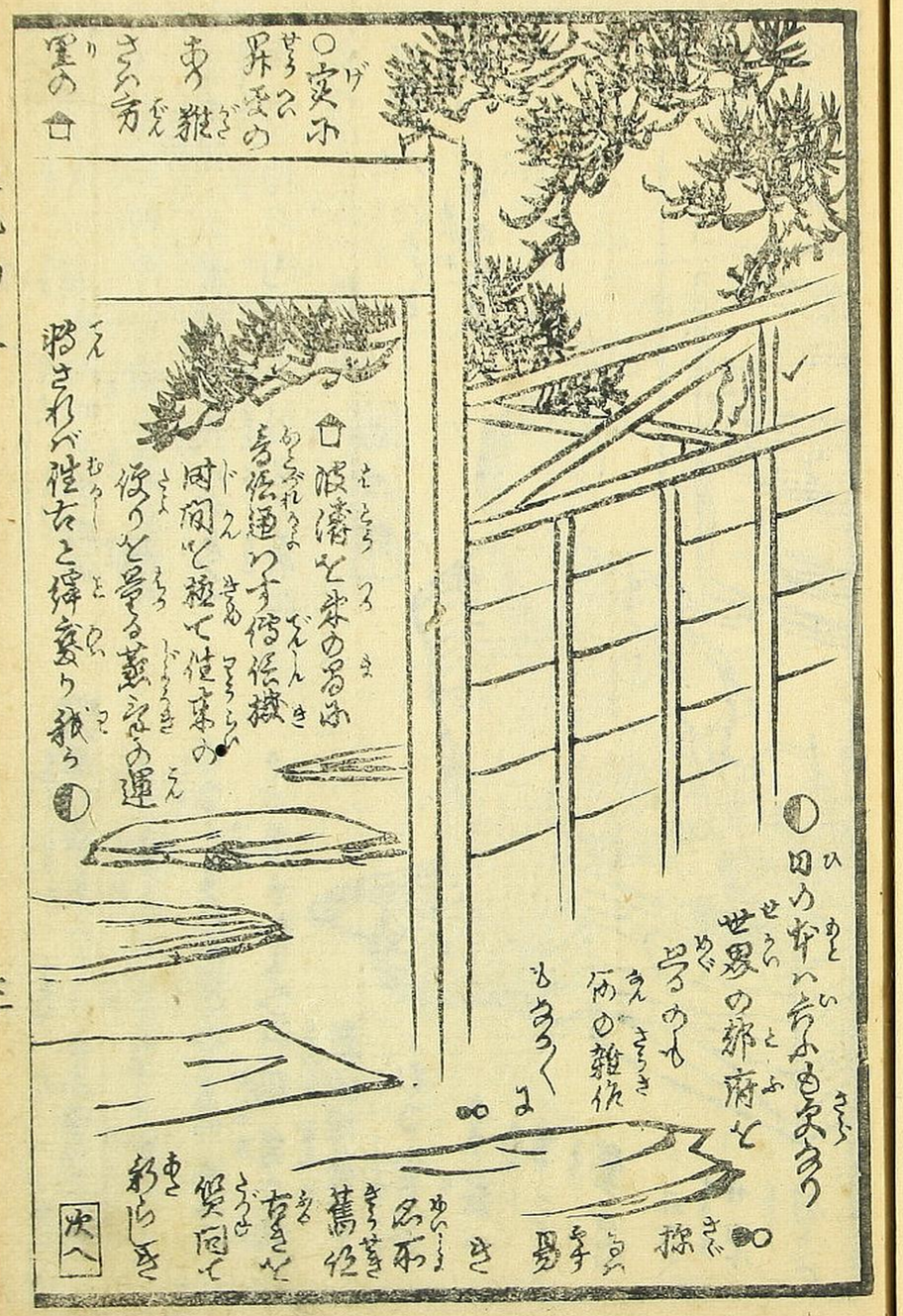
明治十四年 六月吉旦

松村櫻雨戯誌

曽松屋
面治郎
食客
図留七

浦島出る
三筋の糸コ
ますますろ紡
那コ扶を
ひくくと
とのき
揺面塚


そまろや
豪商
開明屋文助


○安ホ
界毛の
あり雅
さん方
里の
波濤を乗の男ホ
書伝通つす伝撰
時間と極て住家の
俗りと号る蓋の運
猪されば住古と俳変り秘ら
日の本へ方面乗う
世界の邦府と
号るのも
伝の雅伝
探
男
名不
舊伝
賀問て
彩しき
次へ

つぎ　ユヱと雖も交際の俗情ふ
潔癖物語智識と成ふ振ふ
言出る人の愛嬌と義理なる
面上が拘乃内通を外面の表に
白ひ花の艶名
に成ふ大江戸と
唱へ人しの風俗を
時代の変化
面倒と稼う
ぬく
忘れ人の
今の東京

面次郎

☒面次郎年は三十の上方ぶり素
よろ家系を尊とする風来人
のみ方わび薄むるあの
うど妻もむ久敬猶自の乱
数治同意めと
むる食客
あり茲ハ
家ド
家ろ
果茶
ふく
忘れ
世事
俗りの

の不ハ花の
糸撞匹ハ
丁場のく
隅ハ手き
ら紀世を勢
輩のメくを
たく
奴羅
秋長と
意情て蕾に
男ありその
名ハ苗松屋 ☒

図留七

むろと
鬼ふ
搗ふ働
きハ賢
もの
一切
承知
の
呑
迎
あて
仮用も
前屋よく
用ハと 次八

つゞき 三ヶ日のあくぎれど
悪縁ちぎり浦くしてと
此家の食客垂候の面
弟八素とれ神田の八町堀
とちめんや
ゆとろべ
絲に帝云
粥が子孫
あて例の
家偽と
相続し先
ふぐつまと小海老
れ幽まぢも拙歴

面次郎

途中
発遍
人その名い

▲おせい偽の

図路傍の工面家
今日しも
紹介
強家紙家に
おしも
巨万の金と
たる者何日の出の
金借家何ろ
高法と

▲

たゞぶたろ
五とせ
のむ色
とたり
又るや
嬢の
ろ

文助

しきふ
此ろ
ぢと
寛舎と
必ぬめぐりとせんものと頼りに

図

べと尋ねて
筋
間の
脳天と

次へ

つき　めん　コハ　つく　用略　面の花を
ぶつも　稼く　貌　や　去遣の
ゑを　方て
証ぢろ
あき
ぶ　ぶ　ぶ　て
ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶろ　ぶ
ぶ　ぶ　て　ぶ
ぶ　て　ぶ　ぶ

面次郎

図　笛七

▲かろやしちゑ　ぶ　ぶ　ぶ
ケスカ　来　結ら
ら
く
イヤ
ぶ
ぶ　ぶ
ケスカ
実ハ
動ル
ぶ
用「ア

いろ　ぶ　ぶ　の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ナニ　夜　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ
ぶ　ぶ

つぎ　ゆめ〻〻ゆめ一ト筋たとまて
ゆるゝ実ハ伊勢のいろ伝れて
近日の間伝記

岡の屋

殺し安すうら勿う
只今の面ハ兄
殺しハ用ハ〻
兄殺しまあるめ人兄道
しなら〻ハイと
の通り伝ハ
お前ハ伝ハ
伝まんぞとゆめ

づるゞ

❶ハ伝伝の
絵ハと
く有り
きて
とんと
接と
つぶし
さべイ
ゆと拍
先の
下り
ゆで

国より使とハの名ゆゑで進上
るのゆゑら断ゆ紀ゆ
及びやせんと又今日懸と等れて
のハチット意法の此があるゝ出ゆて
のゆゑ筆と
ハのより

面次郎

ゆゑで
も破ゆ
ゆゑ一裏
れ接ハ
ハ〻さゆゑ
ゆゑ遠と始ゆゑ伝伝ハ

実ハ
ハれが
ゆれ
ゆと

それゆ
ゆと
ゆ
南
ゆ
ゆ
ゆ
ゆ

❶

花さあゆゑ
の宅へ幸ハ番内殺ー

面次郎

つぎ　さうも甘く仕あのろを
めん「備ゑくつてサ食をと
ゐて根津ぶろ奥深ぶろへ
出うけこぶ
れわ人ろぶる「そ
ゆるやおめが
あるるうこと
らい使りこめぶ
めん「だ〻同
ゐぶる「ウン
ニャ
同

▼ぶる「おしゝが好き求んぶ食客ぶ男わく
おめへぶ和むゝ居るのぶめ「コウお客の
和へ居ぶ失敬々奴ぶ居ゝ今敬遠
ぶさゝと出て仕みへ

○ぶる「十二
敬遠
兼行ぶ

敬遠

ぶや
ア

面次郎

わ人

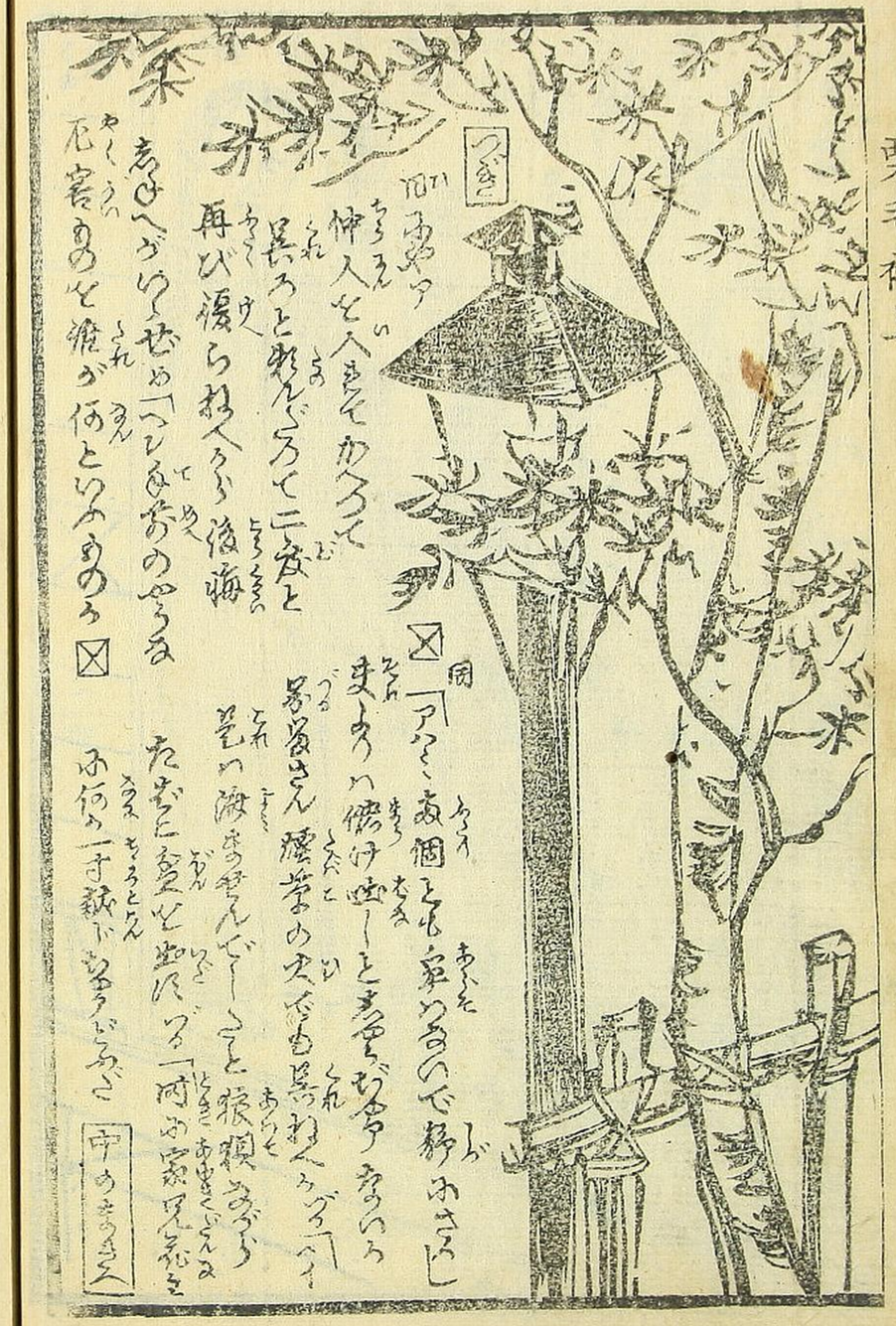
図留七

おめへの
お客ぶめ「エレ公
食客の
癖ホ客
が居て居ま
らや

文助

▼

○
出て居れ
出て
出て
出て



島芳　善惡教訓圖解　上下　全
鮮廣　大日本神社佛閣　全
堂重
畫廣重　東海道五十三次　全
帖周延　德川年代記事　全
折房種　古今名婦傳　全
本廣重　花競東京名所　全
錄　亀　地本錦繪問屋　島鮮堂　綱島亀吉

芳藤　善惡雅教訓　全
周重　俳優忠臣藏　全
房種　花鳥かゞみ　全
周延　蠶之圖　全
房種　命養生善惡鏡　全
廣重　開化東京名所　全

初編

鼓腰三府膝栗毛

中

三府

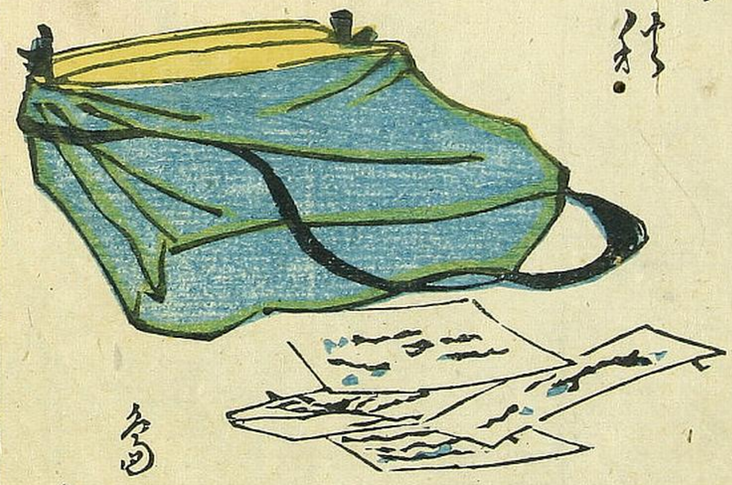
むさし

さつま

初代

中花

結城



この結

亀鶴文庫

上さつまぶし

ウムさつさつかいなくとも一杯

付け初メナ用コレハ酒ハ止や志ゆう

男世帯のうちで飲だり給うい面倒ざつく出しの薄けうふ

ざつう一杯やれ出さうなるとしに先出しはたゆ

ざつあるいうめ「とふうそのまま惚けはを寵ひ

やしまうコウく男家公お茶を搗一杯人の

時ハ出仕搗い何ぐ酒ハまうエ用「マア

ざつとかうざめ「マ」ある粕ゆ「家元

感心が早ふるヨ花ふい まぐ何とも汁仕ゆいせ▲

図留七

▲三人「マ」アハ

ゆ「ある粕と受

用「逆ふサ

書ふい

何ぐ

まーて

用海老ご

ところぶ

つぎ 洋服い色しれい安しで
生面目な商法ぢやア
迷も迷付ねへうち
ゑい一番
異表に

開明屋

◐どふ以ふかん侯うか写せう世へ
やし開家以ふ緑サ新踊り
といふのいね西家の紙
屋

町の
羅ふ
が百人位も
拂ひの差つけで
あ羅屋ふ練
出し西面の舞表
ふる登習ふ引
幕を切て義士と舞

西家の郭踊り
と東家へ持て
来ふ去地めづらしい
仕様ぶり洒ふ洒ふやんやと
受ふ拍ふとあがどあざ
らう「へーイそりやア
世姫素と洒ッぺーぺ表ふが
舞しまぶふ郭踊りと
いふのい始めて何ひ
やきものでまーしふ
ぶつとも家ふ
やせんが

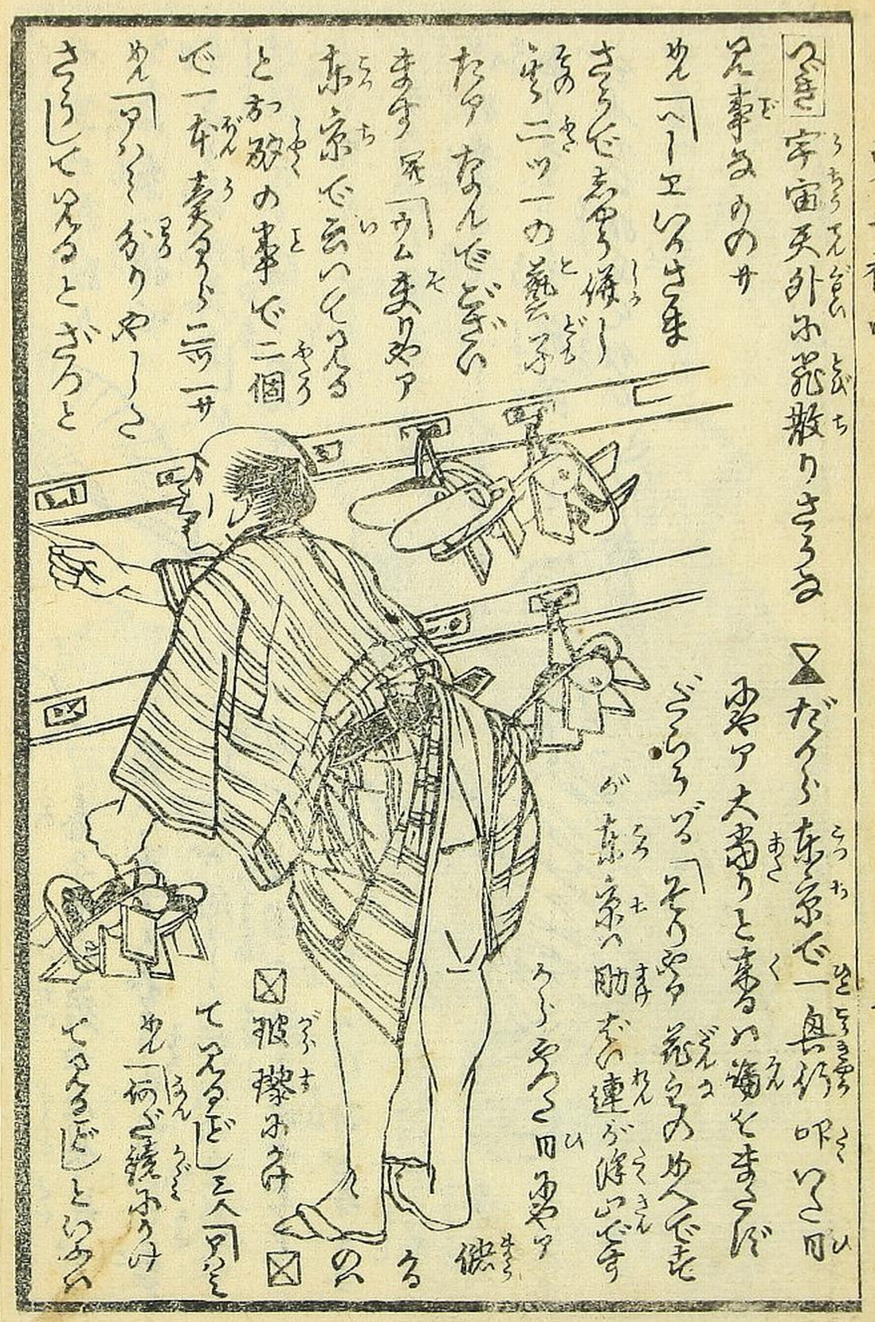
図留七

西次郎

春ふも表舞を見奥廷が
あつて五十人ぶろうも二ツ一の義
ふが同じく拂ひの衣装で
地唄の雛ふにつきて
都うに舞ぶ子ぶ子
ぶ拍ふく祝に
表舞
とふさ
ら眼と
踏ふう
乳も薬

ひも

次へ



つぎ　宇宙天外ふ花散りさろる

兄事なめのサ

め「へーエいろさま

さろ花ちゃ様し

ちゃ二ツ一の蕊子

たア　なんでどぎい

ます　兄「ウム　まりめア

京ちゃ花いそろる

とお敬の事で二個

で一本　麦ろ二ツ一サ

め「アイ〜　ありやしこ

さらしてゆるとざろと

▼だくふ京京で一奥行叩いて四

ゆアア大者りと者い海を　まうで

ごろうる「そうやア　花ちめ　ゆへでた

が京京へ助ちゃ連ふ　ゆいです

ろ〜そうこ四ゆア　供

る

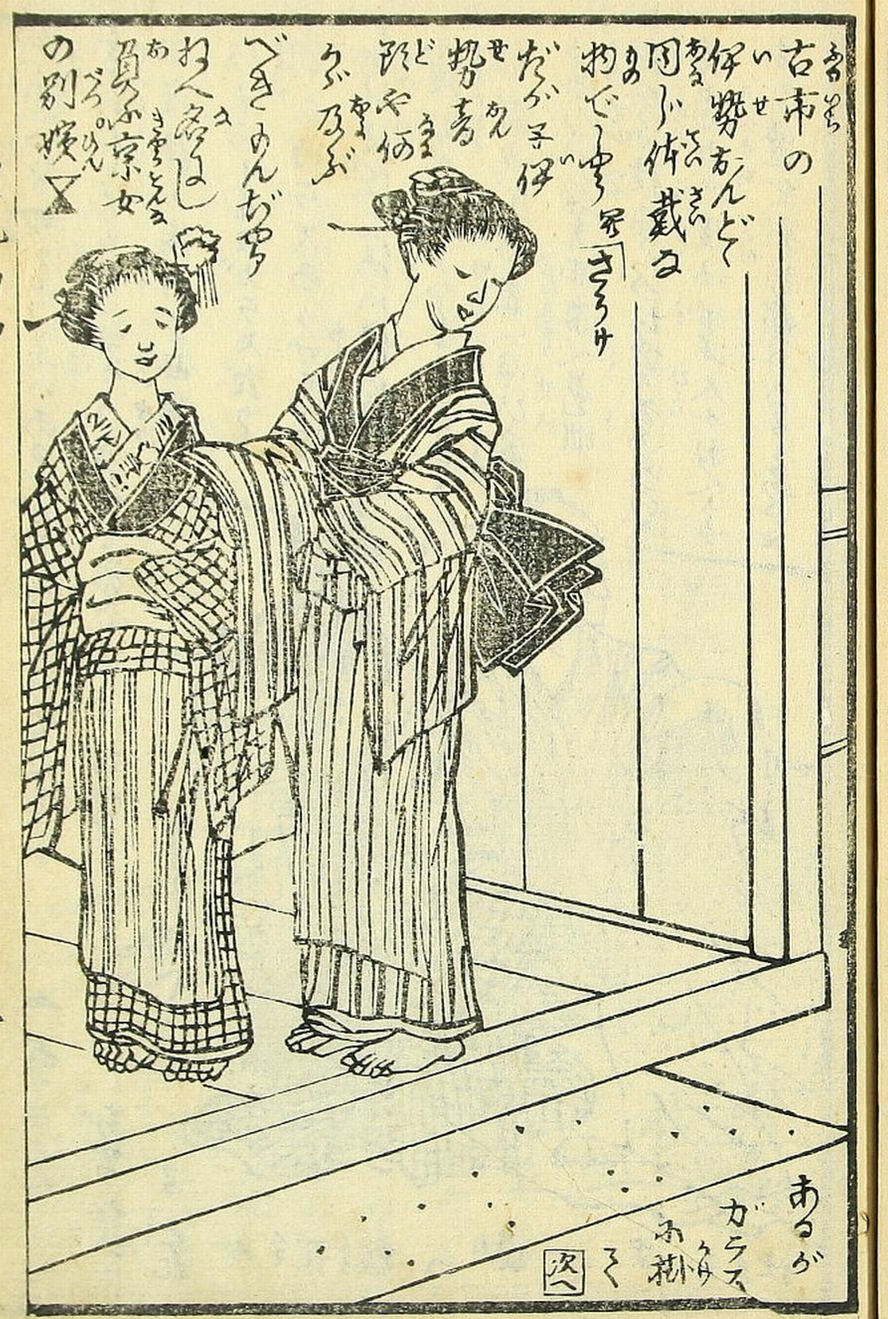
の

▽　波撫みみ

てゆるど　三人「アイ

め「何ぐ　ゆ　ふみ

てゆるど」といふ



古市の

伊勢おんど

同じ体裁な

物でゆ兄「さろサ

ぢふ兄伊

勢者

ぢ伊

ふ

べきめんぢゆア

お人名は

負ふ京女

の別嬢▼

あるが

ガラス

ふ

ふ

つぎ　なるほどといひあるがガラスのみたくてそこらからはんのうじる「ろうきうてゐるよくらぢや」西洋続ぐ源ぢぐ西洋

かぐらいくんがガラスだらぐ刺ちがラスのみたくなる

如ーとろうあい僕の新發明ナ間「アハハハ」そこで手都踊りに東京「ほひ家」第ついちや西京へ見物

掛合新話ろちやあるいろ

▲あるがたぢやあるぢ

「元」が果報へ藤とよちは

めん「そうやア孫ふ形ろう叶ッ

ありでありがたい仕合せろ

何時でもめくりやあやうどろ

私等ふ位あや付て下さい

ほし金体ねいるちちろ等

と表個で京大坂と見物に出

うみる後りで後と金策をや

かーて来るめてすが何ふーろ

徒右と違ッて今ぢや強色が

高速で中々ちとや勘とぢやア

徒ねと字ぢろ探で来る面実ふ

ありがたの勘金を蒙り相人等安公▲

「ハハハ」西洋さん

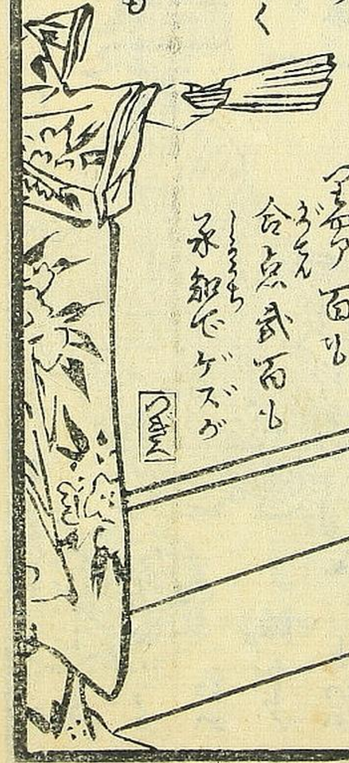
金を都ぢろ

い西京ぢ

次へ

つゞき

大坂ゆも伊う豚抱が
あるごとくうゝ実蛇ゆあさゝて
出ろくのゝ以て又大坂の博賭
金人ゆ勤しだうの出ゆが仕て
うゝ酒ゆ見抱ゆんぞゆ後こゝるが
罵ゝ出まして手西家で邪出ぞう
の約束が滅ぞう後さいうても
大変ぞうゝ次に大和巡り
ちうゝ伊勢参宮ゆう気の向く
ゆゝ見抱して居るが続いいな
候ゝ大和路も伊勢参りも
おゆく方の茶代弥ひさんや



かぎりの
あい出張
い困迫事
が出来るうゝ
その辺い如才
もあるゆ人が狂
くねへ先そ
つ面ア百も
合点武百も
承知でゲズが

つゞき

ゆ八さんが酒
蔵ちゝしこ
古ぞうゝ減た
ゆ酒蔵ぢやア看客が
ゆ受けあきゝゆへ
ゝゝ晒ゆとも面
ゆゝ可笑くた
中紙の出蔵ぞうゆ
成べくこけいゝぞけ
るが腹ゆ出ましゆゆ
ら隠ゝある旅費で
のつて

つぎ 大坂の博覧会へ出品いたしたる物で
ぶつのまつりの子ども
その出品品目
ゆしま美術品の物で
せう用「せんぞ」博覧会へ
亜米利の万国博覧会へ
出品のつもりたるゴム糸と
ちがえて大坂へ商人の勉
強がゴムいろいろ一つい
警官を家る猿
の出品さ国

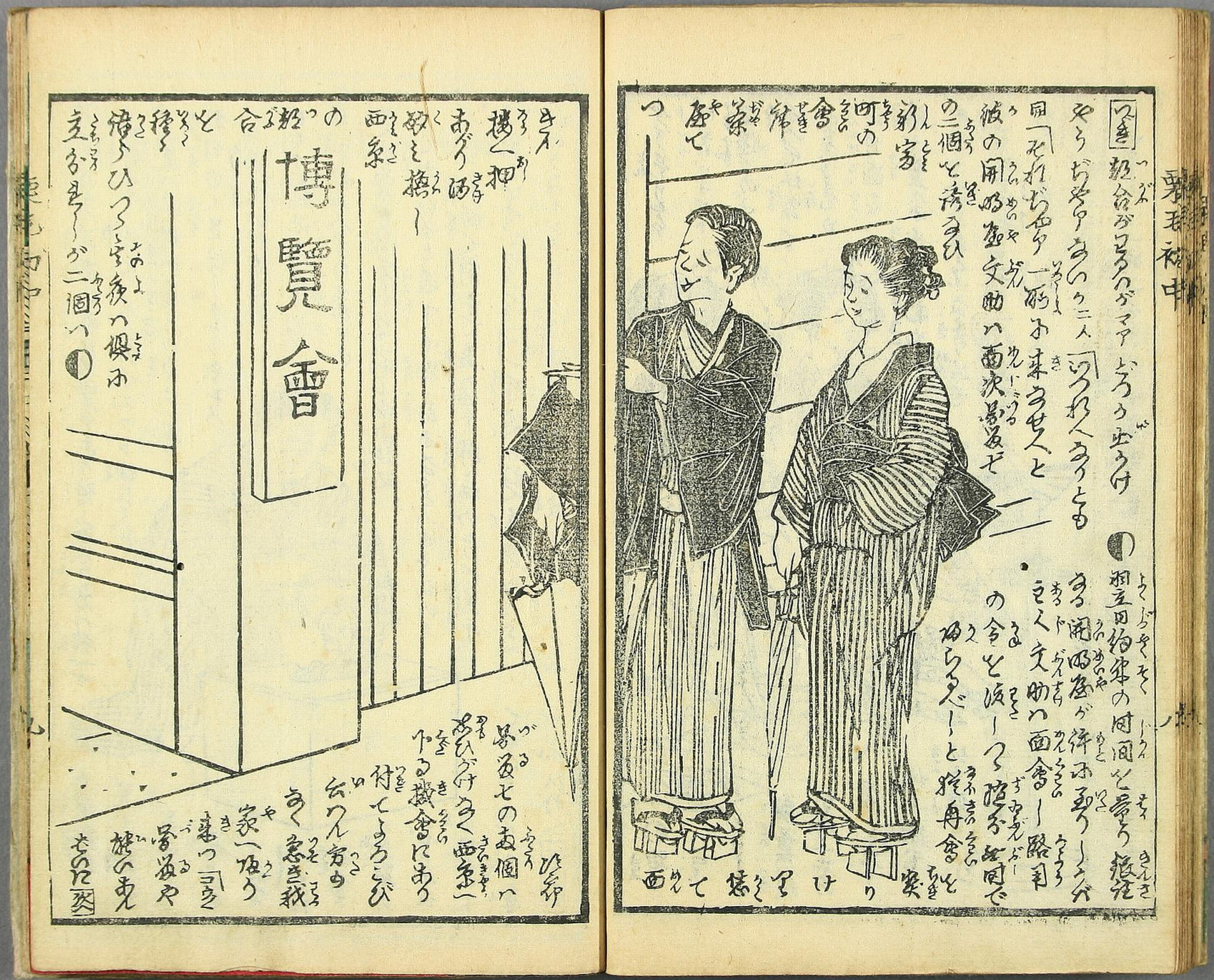
外国へ出品の押出そうと
いふ意想の品ぶつ日本
橫一といくど二個とい
わく珍物ゆとれと
新聞紙ゑんぎ
廣告ゑ出品
右番委ゆの好
事家ハ三數一尝
道の遠きを厭わずして
遥覧ゆ活ゆるゆらと
祭を送ぶ者も日本人ゆア
售ゆつりぶゆら美品ゆ

つゞき

[illegible]

[illegible]

[illegible]


博覽會

島鮮堂畫帖折本録

芳年 上下 善惡教訓圖解 全
廣重 大日本神社佛閣 全
廣重 東海道五十三次 全
周延 徳川年代記事 全
房種 古今名婦傳 全
廣重 花競東京名所 全
周重 俳優忠臣藏 全
房種 花鳥かるた 全
周延 當盤之図 全
房種 命養生善惡鏡 全
廣重 開化東京名所 全

亀 地本錦繪問屋 島鮮堂 綱島亀吉

松雪齋吟光画

島鮮堂梓

下

きんぷらぶね　初へん

ちりそう　下の巻

松村きく　絵

高橋光松

中かつぎ　西条者と甘、

花ぐすりゆめとゆへ
の投ゑ
ぞんぞへ
若ゆめ
恋ゆめ
外一種を　図留七
ひが抔皆ゞ名波しと
ゆめでも一部ちむちゝ
でのやうな世無奥伝
と云つて四ゆめ垂とぺケに
されらゆめ「さうまりゆめ」と笑ゞろくもも

○天和節七ゞ名ゞ付して
「さうまりくんろ」「こちゝ人
あゝよ
ゆ
ゆ
ゆ

つぎ めん「トキニ京百万ノ人家ヲ入ル ねんぐ百万ノ中ニ

昭庵

自慢顔良の鼻柱

同猴の

鼠東ニ居ル人

の宅ヘハ郎ツ

ヲ

なるめんぐ「そさうサ

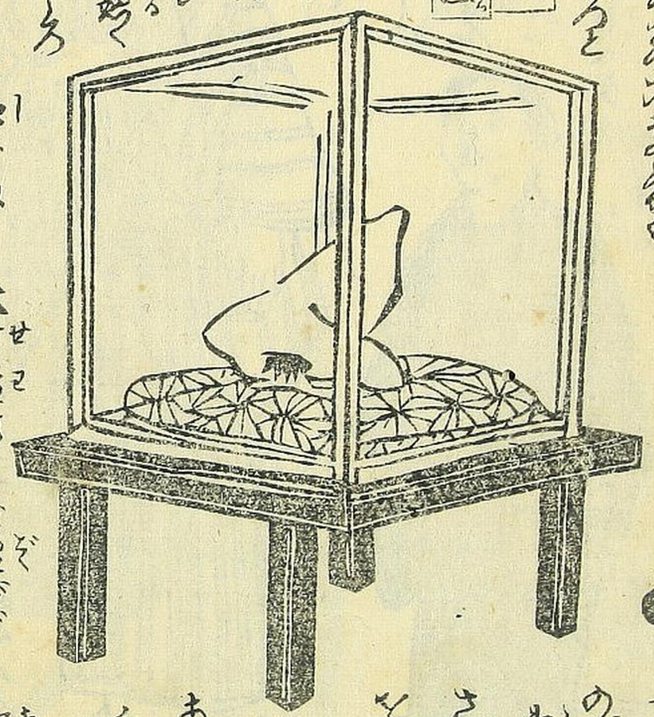
そうやア立ケでも

いぢやア ねんぐ「無く

由ものめんぐ伝ハ

百里の波濤を越して知ル取

池ハで苦労をするといふ徳ぐ



◎世話ハ

今ハ路金を蔵也

◎ぐる「ヲ人ハ

のぐめん「ソレ

裏の方ハ

さん子那女

と備りて

ハ敬と

ハ敬サ

あれでも

チット人ハ

ハ徒ハ

那女ハ

五十歳ハ

今ハ夜ハ京ヲ用

西郷隆盛

陰嚢の敷物

ハ向けの

ハ銀儀ヲ

ねんぐ「オットそのハ

く 儀しめんと

笑ハでハとハが

可笑く ねんぐ

彩家可ハ一疋

生捕ハらぐぐハ

ハ「チット丈層すぎる

ぢやア ねんぐ藝妓を呼あげでハ

くハるハ 僧侶 神社 ねんぐ

ハ

のハ伝ぐハハ

すると考ハ◎

ぐ「タガね

老ハ新る

めんぐ那女ハ

得ハ

ハ

ハ考ハ国ハ

ハ「伝ぐ得ハ

ものハハ

結婚ぐてめんぐて

私富ハ実ね

中年婚ゆえ八町堀あて
多うての私富ふ家わべ
素人と遊び
隠うまぶ
らーの
あべべ
婦女と
新りゆへ
こ「おやく
大層さ
内紙
ちが

つぎ　移りさオそく家尾お晴
さんが家をすッてよモウお銚
子お酒を呑ろうそもくやり
れくなめ　今ハ住よと云ずら
ちり乗り
かん　オヤ

おたと

お晴さん
今日ハ
ア　方あ
傍ふありがとふモウも
今日ハ勢ッぽう加ら業れ
で困りきろで居ンでチョ

ア　ぐ　どよも敬へ

ア　めん　アハて　伝容ものんめ
ねへのサ実ハ新ぶの北屋
ぶが先忘ものの角ものの嫁ものの
ア　オヤお敬とめん　オウト
とぶきる方が文弟宮
公ものきぶめねへ

さろすると此方うふちあると
と弟宮さんがお在な
きろくめでモウくどんなふ
嬉れ
ー
かろ
ろ
ま
ま
ま

つぎ 図書を考へるのも容易ハものヨ
ヨホ〳〵ぬ「とんだ此酒屋へかたと
さんふと「オヤありがてえオヤ〳〵
おれが強いねへと固より
意を意も
あらざる

面次郎

かたこ

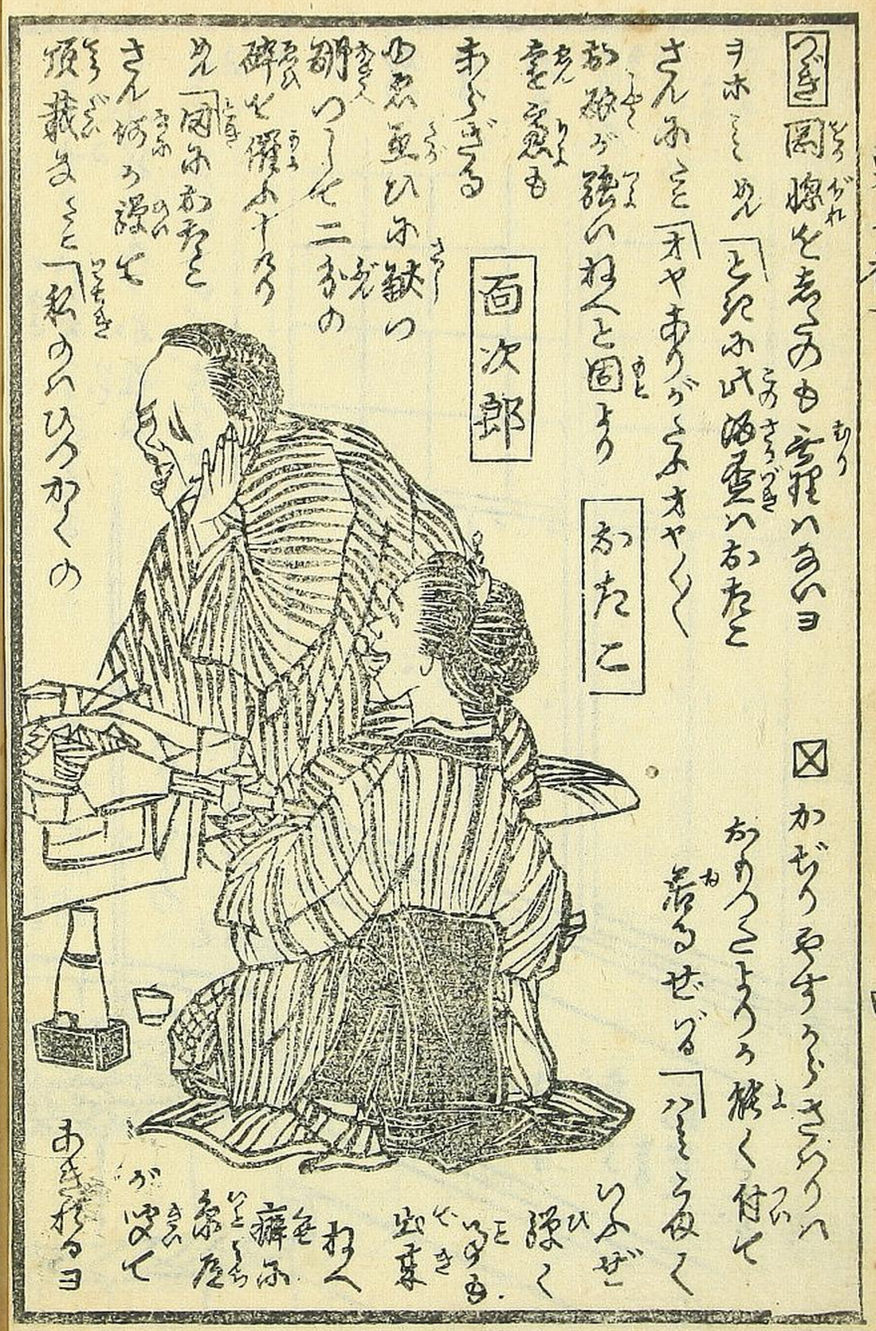


図 かぢりもすりさらりへ
ありつこようろ強く付て
着るせぐる「ハて〳〵ぬ
いなせ
深く
いなせ
出来
わへ
癖ふ
酒屋
がぬて
あきれるヨ

ぢすヨヲあ〳〵ぐる「三味線ぐあると
中ぶらと「強人が上まぶら〳〵
深ひぜすヨヲぐる「これもありがてじざ
ト押入の所潤
うろ意も方び

図 当七

し三味せんを
面ろ出しお嬢
の手人ふあく
と「オヤ大層なお三味
せんぐすりめん「アハて〳〵これハ
結束つきのお粗末繁盛のえ粗
ち遠江の名俵サぐぶとろく 図

ぬ「ぬけ屋あ
ぬめがあく知る
だらぐる「ぞく
人力車屋と様
い
ぬ
ぐる「べ〳〵
いろめへ元入「アハて〳〵オホ〳〵
と「ちろとお注付をつけま
せうれへうと「ぬ〳〵と二個が 図入

つぎ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

つゞき

私宅の表戸を蹴破つて

蔵に乱暴するく為巡査さんと

いふ新聖代が発や盗賊

び出し〜と思ひ掃除に

の戸を突きあけ素足の

まゝ表へ逃げ出せば

と表いたる跡〜騒〜

「ヨウく明いと

ふ戸を開

あいあけるとが

ちうんチウ

あら

あ戸のをぶち壊いくも

あッ逃入るゼコレヤイ

明んうくと縛りあ表

と歩うくも西の方

も今は堀り

多◆

◆彫りく

表戸を開けて

多掘の如く地べたを

平伏しめ「へイく何の

巡査様の家ゝ来たんが

つき
私が者家の
個者
私家面
たと

面次郎

つぎき　繁るいとぜ穢が芋ふるふぞろと
めん「だぶあたとさんいどあーさ
ぶる「ぶん
でも今
の
家
闘
ふ
ぶろう消亡ぶろとさうごめん「已巻ぶろ
てを巡査の五人やら人ふ踏込まと後ぐ
びくとも走るのぶやう扇人がお諸さんが
走るうう五寸の弱身サぶる「まきろ

図　苗七

◆とーく粉ーなく立
汚ゆく米の三千表いろく
二面いとゆきあ面く
さ及に後てらう
とあ
きろうハの
鞘帝ふ
ろ見る白
ハあうま
せんぞ
ぜんよう人
きぐも
粉ぶ今ろ

さうでもあるめ人一ト切ぶ夢あめ人の　面次郎
教の色いあうぶぜめ「へと
人氏ハ相五ひ
ト嘉ぶ自ぶ由の
捨ぶる「その捨が
剣呑ぶ
ろう三文可
つる「ぶヤ伝ぶあ
さんぶこんふ面ぶ義ふて
長つぶぜと男男七ハ紙切ぶ
ふとう閑きかんて才ヤく
このつい可笑色情文まぶ◆

査　公

▲アぶ〜めん「どれく　ちろとと等ふ
長ぶ笑ぶ笑ぶ笑

櫻雨著　吟光画

御届
明治十四年十月日

京福区南鍋町一丁目一番地
編輯人　松村春輔

浅草区瓦町十二番地
出版人　綱島亀吉

島鮮堂畫帖折本録

芳年　善惡教訓圖解　上下　芳藤　善惡雅楽釧　全
廣重　大日本神社佛閣　全　周重　俳優忠臣藏　全
廣重　東海道五十三次　全　房種　花鳥かゞみ　全
周延　徳川年代記事　全　周延　書鑑之図　全
房種　古今名婦傳　全　房種　命養生善惡鏡　全
廣重　花競東京名所　全　廣重　開化東京名所　全

亀　地本錦繪問屋　島鮮堂　綱島亀吉

010190525126